

ふるさと再発見 第29回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝②

―みちのくで活躍した文人商人―

内池 永年

うちいけながとし

近江八幡偉人伝の第2回目は、国学者・内池永年を紹介します。

永年は、八幡商人のひとり内池与十郎家の8代目当主にあたります。内池与十郎家は小幡町中に本店を持ち、17世紀後半頃、奥州街道の宿場町である瀬上宿

(現在の福島県福島市)に出店を構え、呉服・茶などの販売や酒造・醤油醸造などを営んでいました。

永年は宝暦13(1763)年岩倉村(馬淵町)の郷士・中村政富の三男に生まれ、幼くして内池家7代与十郎の養子となりました。福島・瀬上に移った永年は16歳で養父を失い、養母の兄・船橋清左衛門を後見人として家業に精勤し、やがて独り立ちして、八幡に住む養父母の三女と結婚しました。八幡との間

を往来しながらも、みちのく

地で単身商いに励む永年は先々代より経営状況が悪化していた同家を再興し、寛政11(1799)年、妻子と母を八幡から呼び寄せ、福島に永住します。

享和2(1802)年39歳で隠居した永年は、隠居料年間20両を糧に学問に励みました。文化9(1812)年49歳の時、和歌山藩に仕えていた国学者・本居大平(本居宣長の門人で、後に宣長の養子となり本居家を継いだ)に入門しました。また、

福島では、国学・和歌同好の集団「みちのく社中」を主宰しました。ただし、活動は福島だけにとどまらず、師匠である本居大平を和歌山まで訪ねる際には、京都やふるさと近江のゆかりの地を訪れています。



内池家が故郷を思い、瀬上宿に創建した廣旗八幡宮(拝殿扁額)

永年は、著書も多数残してお

り、師である本居大平の指導もあって奥州と近江、つまり彼にとつてふたつのふるさとに関する地誌や、民俗調査の記録などをいくつか書き記しています。

例えば、『磐梯考 近江国湖考』では、磐梯湖すなわち猪苗代湖と近江国湖すなわち琵琶湖を取り上げ、その語源を考証しています。『磐梯考 市辺皇子陵考 岩窟考 神社考 追考』では、前述の猪苗代湖と現在の東近江市にある市辺押磐皇子御陵と近江国蒲生郡岩倉、そのほか蒲生郡内神社について考証をしています。

特に「岩窟考」は、永年の出身地である岩倉村の馬見岡神社の祭祀に関わる多くの事項につ

て考証をしています。

そのほか、さまざまな教養的、時事的情報を書き記した「内池随筆」では、ロシア船の漂流や大塩平八郎の乱とそれによる大坂の状況について記しており、このあたりは、本居大平門人である文人としてのネットワークもさることながら、各地の近江商人や飛脚問屋など、永年自身の八幡商人としてのネットワークを駆使して、書き記したものと

いえるでしょう。

永年は、嘉永元(1848)年86歳という長寿でその生涯を終えますが、同家は、現在も旧瀬上宿の奥州街道沿いに「近江屋」の屋号で店を構えています。



現在も福島市旧瀬上宿にある内池永年ご子孫の店舗

広報おうみはちまん

令和3年5月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236
TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp
WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp

❗ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯 令和3年4月1日現在 ()は前月比

総数	82,213人	(-109)
男	40,399人	(-76)
女	41,814人	(-33)
世帯	34,648世帯	(+75)

※外国人住民(43カ国・地域/1,588人)を含みます。